

Screening Schedule

上映スケジュール

10:00	「再びおかえり」(105分) マルコス・ヨシ監督舞台挨拶
12:10	(休憩) ※館内の飲食スペースは限られております。また、会場周辺には飲食施設等がございますので、ご了承ください。
13:15	「高岡事件」(10分) 「高岡事件メイキング」(40分) 高校生&空族&スタジオ石 シンポジウム
15:05	「典座-TENZO-」(59分) 空族 監督舞台挨拶
16:20	「父を探して」(80分)
17:40	終了

Movie Ticket

鑑賞料金

	▼1回券	▼1日券
前売券 (限定100部)	一般 1,500円 学生・U20・シニア 800円	一般 3,000円 学生・U20・シニア 1,500円
当日券	一般 1,800円 学生・U20・シニア 900円	一般 4,000円 学生・U20・シニア 2,000円

★未就学児無料 ※学生:受付で学生証をご提示ください/U20:20歳以下/シニア:60歳以上

クラウドファンディング出資者
「高岡事件」特別無料ご招待!

★クラウドファンディングの寄付については下記をご確認ください。

Crowdfunding

クラウドファンディングについて

〈高校生たちが作った短編映画「高岡事件」ー 上映を成功させたい!〉

2022年3月、富山県内の外国ルーツの高校生と日本人の高校生計10人は、プロの編集者などの協力を得て、短編映画を制作しました。映画祭ではこの映画「高岡事件」の上映をします。映画祭を成功に導くためにぜひご支援をお願いします。みなさまにご支援いただいた資金は、映画祭の運営費として使わせていただきます。

リターン (1口)

- 1,000円 : お礼のメール
- 3,000円 : メール+特別招待券(「高岡事件」)1枚
- 5,000円 : メール+特別招待券(「高岡事件」)2枚
- 5,000円 : メール+限定配信動画
- 10,000円 : メール+オリジナルTシャツ
- 15,000円 : メール+オリジナルTシャツ+限定配信動画

募集期間 2022年5月2日～6月1日



オリジナルTシャツ
高岡大仏の図柄入り
「高岡事件」Tシャツ
サイズ: S~XL
カラー: 白・メトロブルー

※画像はイメージです。

限定配信動画

映画「高岡事件」+映画制作ワークショップメイキング映像をネットで視聴するためのリンクをお送りします。

※YouTubeによる15日間の限定配信



/ ご支援はこちらから

<https://camp-fire.jp/projects/view/580848>

チケット購入

- ・アレッセ高岡 ホームページ特設サイトにて <https://www.alece.org/filmecolorido>
- ・アーツナビ窓口(富山県民会館、富山県教育文化会館、富山県高岡文化ホール、新川文化ホール)

お問い合わせ

アレッセ事務局 Email: alece.takaoka@gmail.com TEL: 080-8885-6823
〒933-0928 富山県高岡市守山町35 ニッセンビル402 <https://www.alece.org/>

アレッセ高岡フィルムフェスティバル〈フィウミ・コロリド〉

日時: 2022年6月11日(土) 10:00(開場9:30)~17:40

場所: 高岡市ふれあい福祉センター 多目的ホール(富山県高岡市博労本町4-1)

主催: 特定非営利活動法人 アレッセ高岡

国籍・民族・文化・言語・宗教などの「違い」を越えて、同じ地域の住民として共に地域の課題を解決し地域の未来を築いていくための人材育成を行うこと、多様性を尊重しそれを地域の力とする社会の実現に向けた住民の意識の醸成を図ることを目的に日々活動しています。
〈映画〉は「違い」の壁やフィルターを越えて、ダイレクトにわたしたち人間の心に響きます。アレッセ高岡は、フィルムフェスティバルの表現活動を通して青少年が対等に議論をしたり助け合ったりしながら成長し、その素晴らしい可能性を開花させ、新しい地域・世界の未来を指し示してくれると信じています。

●館内の飲食等は決められたスペースでお願いします。●感染症予防対策にご協力をお願いします。



協力: アトリエセーバー/ほとり座

後援: 高岡市、在名古屋ブラジル総領事館



CLD青少年のための市民性教育プログラム



カラフルなぼくたちの、シネマストーリー

Filme
Colorido
フィウミ・コロリド

〈上映作品〉

高岡事件+メイキング

〈高校生〉〈空族〉〈スタジオ石〉シンポジウム

典座-TENZO-

再びおかえり

監督マルコス・ヨシ トーク

父を探して

第2弾: 映画祭

社会の多様性と、一人ひとりの可能性を描く

CLD青少年のための市民性教育プログラム

アレッセ高岡フィルムフェスティバル〈フィウミ・コロリド〉

2022年6月11日(土) 10:00(開場9:30)~17:40 高岡市ふれあい福祉センター 多目的ホール

国籍・文化・宗教などの「違い」を越えて、地域と世界の新しい未来をカラフルに描く！

アレッセ高岡フィルムフェスティバル〈フィウミ・コロリド〉
2022年6月11日(土) 10:00~17:40 高岡市ふれあい福祉センター多目的ホール

13:15~

高岡事件



富山の高校生が制作した短編映画、初上映！

富山県内の外国ルーツ／日本人の高校生が、映像製作集団「空族」の協力を得て制作した渾身の短編映画。初上映！！

10人の高校生、10の事件…。映画制作ワークショップに参加した高校生たちそれぞれの〈事件〉が脚本のベースとなり製作された。恋愛、ミステリー、ホラー、SF、スペクタクル(!)すべての要素が入りつつも、「誰かといっしょに何かをつくること」の喜びに溢れている。

鑑賞者全員に／高岡事件オリジナルステッカープレゼント！

出演：佐伯彩萌、北山春樹、老田朱里、津川桃果、中陣 凜子、山田あなべり、亜久楽夢ホマメドサード、亜久楽夢アナムファティマ、此川 凜、刘 佳淇、岡田安弘
製作：空族・アレッセ高岡
2022／10分／日本

短編映画「高岡事件」メイキング

Filming with KUZOKU ～みんな空族になっちゃった～



3月末に行われた〈映画制作ワークショップ〉。参加希望者多数により、抽選で決まった10名の高校生たち。ワークショップ当日、講師陣も参加者もみんなが「はじめて」からスタート。国籍・母語・文化・宗教など、多様なバックグラウンドを持つ高校生たちと大人たちの3日間を追ったドキュメンタリー。

製作：朝倉太郎

高校生+空族+スタジオ石 シンポジウム

制作チームの富山の高校生と空族(富田克也・相澤虎之助・スタジオ石)による映画制作と高岡事件についてのシンポジウム



富田克也(映画監督)
1972年山梨県生まれ。2003年に発表した処女作、『雲の上』が『映画美学学校映画祭2004』にてスカラシップを獲得。これをもとに制作した『国道20号線』を2007年に発表。『サウダーチ』ではナント三大陸映画祭グランプリ、ロカルノ国際映画祭独立批評家連盟特別賞を受賞。



相澤虎之助(映画監督・脚本家)
1974年埼玉県生まれ。『国道20号線』『サウダーチ』『チェンライの娘』『バンコクナイツ』『典座』など富田克也監督作品の共同脚本を務めている。監督作に、『パピロン2 THE OZAWA』など。瀬々敬久監督と共同脚本を務めた『菊とギロチン』で、キネマ旬報ベスト・テン日本映画脚本賞を受賞。



スタジオ石(映像制作プロダクション)
山梨県の石という地区に拠点を置く、向山正洋と古屋卓磨からなる映像制作チーム。ミュージックビデオや自主制作の映像作品を中心に活動。映画やアニメから強い影響を受け、脚本、演出、撮影、編集まですべてをこなす。

15:05~

典座-TENZO-



©空族

★カンヌ国際映画祭「批評家週間」特別招待
★マルセイユ国際映画祭 観客賞

出演：河口智賢、近藤真弘、倉島隆行／青山俊董
監督：富田克也／脚本：相澤虎之助、富田克也
製作：全国曹洞宗青年会
宣伝：岩井秀世／配給：空族
2019年／62分／DCP／ビスタ／5.1ch

『サウダーチ』『バンコクナイツ』に続く空族作品！ 仏教とそれを取り巻く3.11以後の日本のすがた

10年前、本山での修行期間を終えた兄弟子の隆行(リュウギョウ)と弟弟子の智賢(チケン)は、自らの生まれた寺へとそれぞれ戻っていった。富士山の裾野に広がる山梨県都留市、耕雲院。智賢は、住職である父と、母、妻、そして重度の食物アレルギーを抱える3歳の息子と共に暮らしている。全国曹洞宗青年会副会長としての顔も持ち、いのちの電話相談、精進料理教室やヨガ坐禅など、意欲的な活動を続けている。一方の兄弟子・隆行は福島県沿岸部にあったかつてのお寺も、家族も檀家も、すべてを津波によって流されてしまった。今では瓦礫撤去の作業員として、ひとり仮設住宅に住まいながら本堂再建を諦めきれずにいた。仏僧も、それぞれみなひとりの人間。仏教は果たして必要とされているのか？ 今こそ本当に信仰が求められる時代なのではないか。苦悩しながらも仏道に生きる若き僧侶の姿、そして高僧・青山俊董のこぼれ話を通じて、映画は驚くべき境地に観客を誘うことになる。



空族(くぞく) 映像制作集団

2004年、「作りたい映画を勝手に作り、勝手に上映する」をモットーに、『空族』を名のりはじめる。常識にとられない、毎回長期間に及ぶ独自の映画制作スタイル。作品ごとに合わせた配給、宣伝も自らの手で行ない、作品はすべて未ソフト化という独自路線をひた走る。テーマは日本に留まらず、広くアジアを見据えている。

10:00~

再びおかえり



家族の絆を築き直そうと奮闘する、日系ブラジル人家庭の悲喜交々の日常を描くセルフドキュメンタリー

両親と子らの13年ぶりの再会。日本からブラジルへ「出稼ぎ」をした大勢の移民たちの子孫である日系の家族が、絆をとりもどす過程を描くドキュメンタリー。監督であり登場人物の一人でもあるマルコス・ヨシは、このデビュー作において彼の家族の移民としての足跡をたどる一方で、一家の暮らしを安定させようと願うと家族が共に暮らせなくなってしまうという、家族の葛藤を浮き彫りにする。これは、移住によってはなればなれになった何千もの家族の物語のうちの一つであり、かつ世界最大の日系コミュニティをかかえるブラジルにおける、日本人の存在に光を当てるものである。

監督：マルコス・ヨシ
出演：ロベルト・シンチ・ヨシサキ、ヨシサキ・ヤヨコ、マルコス・ヨシ
原題：Welcome Back, Farewell
2021／105分／ブラジル

©Meus Russos.All rights reserved



マルコス・ヨシ トーク

監督・マルコス・ヨシのポストトーク

マルコス・ヨシ (映画監督)

1985年、日系ブラジル人のコミュニティが存在するサンパウロ内陸部の小さな町で生まれる。サンパウロ大学でオーディオビジュアルを学ぶために首都に移る。そこで、短編フィクション映画「Aurora」(2010年)、「Acordairis」(2011年)と卒業制作の「Quando o Céu Desce ao Chão」(2012年)を監督し、大学の映画祭で展示され受賞。2016年からはフィルムエッセーの研究に専念し、修士課程修了後すぐに2018年、同大学の博士課程に進学した。2020年には、長編映画デビュー作の「再びおかえり」の世界を広げる派生プロジェクトとして、フィクションとドキュメンタリーのハイブリッドショートフィルム「Aos Cuidados Dela」を公開した。



©Marcos Yoshi

16:20~

父を探して



★第88回アカデミー賞長編アニメ映画賞ノミネート
★ブラジリアカデミー賞最優秀、長編アニメーション賞受賞

監督：アレ・アブレウ
音楽：ナナ・ヴァスコンセロスほか
原題：O Menino e o Mundo / The Boy and the World
2013年／ブラジル／80分 配給：ニューディアー

小さなお子さまから大人までどなたでも楽しめます。

父を探し出す旅は、やがて祖国ブラジルと、生きることの意味を問う旅へ。全編手描き・セリフなしのアニメーション



ブラジルのインディペンデントアニメ界の新鋭アレ・アブレウ監督による長編アニメーション作品。全編セリフなしで描かれ、普遍的な寓話でありながら、ブラジルの現実も切り取った作風で、2014年のアヌシー国際アニメーション映画祭で最高賞にあたるクリスタルと観客賞をダブル受賞した。ある日、少年の父親は出稼ぎのためにどこかに旅立ってしまった。父親を見つけて、家に連れて帰ることを決意し、旅に出た少年を待ち受けていたのは、虐げられる農民たちの農村や、孤独が巢食う都会と、少年にとっては未知の広大な世界だった。少年は、行く先々で出会った大人たちや犬、音楽を奏でる楽隊の助けを得て父親を探していく。